

上北農業生産情報 第1号

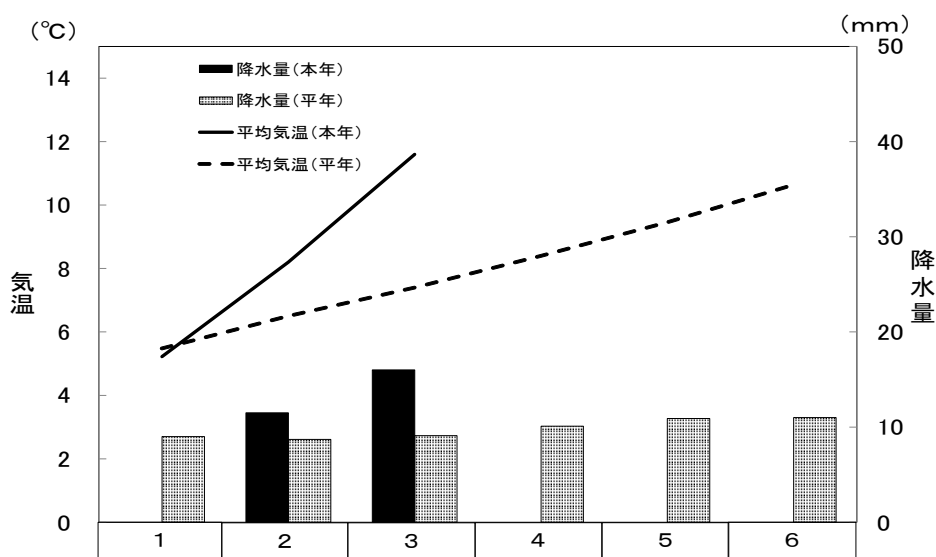
令和4年4月21日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

春の農作業安全運動展開中（実施期間：令和4年4月1日～令和4年5月31日）

【農作業安全のポイント】

- 慣れた作業でも油断せず、安全を確認して、作業しましょう。
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- 1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合は、家族に作業場所と帰宅時間を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう。

気象



4月半旬別気温・降水量の推移 (十和田アメダス)

【4月】

- ・平均気温は、第1半旬は平年より低く、第2、第3半旬は平年より高かった。
- ・降水量は、第1半旬は平年より少なく、第2、第3半旬は平年より多かった。
- ・日照時間は、第1、第2半旬は平年より多く、第3半旬は平年より少なかった。

【4月の気象 (十和田アメダス)】

項目 時期	平均気温°C		最高気温°C		最低気温°C		降水量 mm		日照時間 h	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1半旬	5.2	5.5	11.9	10.9	-1.4	0.0	0.0	9.0	44.7	29.8
第2半旬	8.2	6.5	15.6	12.1	0.8	0.9	11.5	8.7	39.6	30.5
第3半旬	11.6	7.4	16.1	13.2	6.1	1.6	16.0	9.1	22.5	30.8

注) 各半旬の気温は5日間の平均、日照時間及び降水量は5日間の合計

東北地方 1か月予報(4月16日から5月15日までの天候見通し)

令和4年4月14日 仙台管区气象台発表

- 東北太平洋側では天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

水 稲

《は種状況》

管内のは種始め（5%進ちよく）は平年並みの4月9日、は種最盛期（50%進ちよく）は平年より3日遅い4月16日であった。

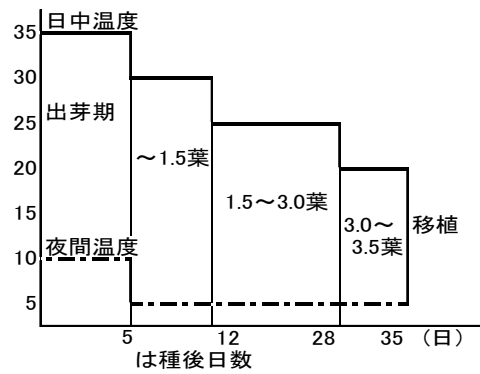
【は種進ちよく状況】

項目 区分	水稻作 付面積 (ha)	4月15日現在 は種面積		年次	は 種		
		(ha)	(%)		始 (月/日)	最盛期 (月/日)	終 (月/日)
上北管内	7,471	3,209	43.0	本年	4/9	4/16	
				平年	4/9	4/13	4/20

《今後1か月間の主な作業》

1 育苗管理（中苗）

- ア 育苗ハウスやトンネル内に正確な温度計を設置し、随時温度を確認しながら、苗の生育に合わせたきめ細かな温度管理を行う（右図参照）。
- イ 降霜や低温が予想される場合、シルバーポリトウ等の被覆資材で苗を被覆するとともに、石油ストーブ等の暖房器具も併用し、保温する。
- ウ 田植え1週間前頃からは、霜や強風の心配がない限り夜間もハウスやトンネルを開放し、外気に慣らして丈夫な苗に仕上げる。



2 水管理

- ア かん水は、箱土が乾いて苗の葉先が巻き始めたら、午前中に育苗箱の底までしみ込むよう十分に行う。
- イ 機械的に毎日かん水すると徒長・軟弱な苗となり、病害が発生したり、田植え後の生育にも影響するので、箱土の乾燥具合を判断してかん水する。

3 病虫害防除

- ア いもち病や初期害虫等を予防する箱施用剤は、薬剤毎に使用時期や方法が異なるため、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。
- イ 水稻の育苗ハウス跡地に他作物を栽培する場合、いもち病等の予防防除は、ハウス外に育苗箱を並べて箱施用剤を処理するか、本田防除に切り替える。

4 本田管理

- ア 畦畔のかさ上げと補強等
畦畔は、冷害防止のための深水管理ができるよう、かさ上げや補強を行う。
- イ 本田施肥
 - ・食味・品質の向上と気象の変動に対応できる米づくりを行うため、地帯別・品種別の施肥基準を守る。特に、多肥栽培は食味・品質の低下を招くので行わない。
 - ・低温や病害等に対する抵抗力を高めるため、堆肥等の有機物やケイカル等の土壤改良資材を積極的に施用する。
- ウ 代かき、田植えの準備
 - ・代かきは、田面に高低差が生じないように、丁寧に行う。
 - ・田植えの適期は、日平均気温が13℃以上となる時期（十和田で5月17日頃）が目安であり、機械の点検整備等を早めに行い、田植えの準備を進める。

小麦

《積雪の状況》

十和田市アメダスの消雪日は3月9日で平年より3日早く、長期積雪期間は75日で平年並みだった。

調査地	年次	根雪始め	根雪終わり	消雪日	長期積雪期間
十和田市 アメダス	本年	12/24	3/ 8	3/ 9	75日
	平年	12/26	3/11	3/12	76日
	前年	12/14	-	-	-

注) 「根雪」とは積雪の継続期間が30日以上続いている状態のことで、「根雪」＝「長期積雪」のこと。平年値は平成13年～令和3年度の平均

注) 十和田アメダスは十和田地域気象観測所移転に伴い、根雪終わり、消雪日、長期積雪期間は欠測

《生育状況》

- 1 生育観測ほの4月11日現在の生育は、草丈は平年を下回り、茎数は平年を上回っている。幼穂形成期は平年より2日遅い4月4日であった。
- 2 雪腐病の発生は例年より多く、被害の大きいほ場では欠株がみられる。
- 3 越冬前の生育が旺盛だったほ場では、うどんこ病の発生が少程度見られる。

【生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	は種日 (月/日)	4月11日現在		幼穂形成期 (月/日)
			草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	
十和田市相坂	本年	10/ 2	15.4	1,630	4/ 4
	平年	9/26	17.1	1,255	4/ 2
	前年	10/ 3	24.3	1,460	3/25

注) 平年値は平成14年～令和3年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 追肥

一穂粒数を確保し子実のたんぱく質含有量を高めるため、止葉抽出期（平年5月上旬）に追肥を行う。追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況、葉色等を考慮して増減する。

※止葉抽出期：止葉が出現した茎が全体の4～5割に達した時期

2 病虫害対策

ア うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に行うと、上位2葉での発生を少なく抑えることができる。

イ 赤かび病の防除は1回目を開花始め～開花期（平年5月下旬）、2回目をその7日後に行い、予防散布を徹底する。

大豆

《今後1か月間の主な作業》

1 排水対策

転作田に作付けする場合は、明きよや弾丸暗きよを設置し排水対策を徹底する。

2 土づくり

ア 大豆の生育に適した土壌酸度はpH6.0～6.5である。酸性の強いほ場や転作田では生育不良や根粒菌の活性低下を招くため、苦土石灰などで酸度矯正する。

イ 出芽、苗立ちを揃えるため、ロータリーで碎土し、丁寧に整地する。

ながいも

《掘取作業状況》

春掘り作業は例年並みの3月中旬から始まったものの、3月19日の降雪・積雪による作業中断やだいこん等のは種作業との競合のため、例年より1週間程度遅れている。

《今後1か月間の主な作業》

1 収穫

地温の上昇に伴い芽が動き始めるので、できるだけ早く春掘作業を終える。

2 植付け準備

ア 畑の準備

・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。

イ 種いもの準備

・ウイルス病等の被害がなく、形状の良いものを選び、大きさ別に分ける。
・土壌病害を防ぐために、種子消毒を行う。

3 植付け

ア 50～100g程度の子いもは頂芽を付けたまま、5月上旬に植付けする。

イ 100～150g程度の子いもは、頂芽を切除して5月中旬～6月上旬に植付けする。

ウ 切いもは120～150g程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植付けする。

4 種子生産

むかごによる1年子生産は4月下旬～5月上旬に植付け、小切片による2年子生産は5月下旬～6月上旬に植付けする。

5 輪作

連作による土壌病害を防ぐため、輪作を行う。

にんにく

《生育状況》

- 1 生育観測ほの4月11日現在の生育は、草丈33.6cm(平年比130%)、生葉数3.9枚(平年比95%)となっている。りん片分化期は4月16日(平年比7日早)となっている。
- 2 一般ほ場も、順調に生育している。
- 3 病害の発生は全般に少ないが、植付けが早く、生育が進んでいるほ場では春腐病が発生している。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	年次	4月11日現在		りん片 分化期 (月/日)
		草丈 (cm)	生葉数 (枚)	
七戸町榎林	本年	33.6	3.9	4/16
	平年	25.9	4.1	4/23
	前年	26.4	4.6	4/14

注) 平年値は平成8年～令和3年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 病虫害防除

ア 春腐病

発病株は、他の株への伝染源となるので、抜き取ってほ場外に持ち出して処理する。また、予防防除を行う場合は、降雨前の薬剤散布が効果的である。

イ さび病

ほ場をよく見回り、発病しやすい下葉や葉裏等で発生を確認したら、治療効果の高い剤を散布して蔓延を防止する。

ウ 薬液散布量

生育量に応じて散布量を増やし、薬液を霧状にむらなく茎葉に付着させて防除効果を高める。

春だいこん

《は種・生育状況》

- 1 生育観測ほ（トンネル栽培）のは種は3月18日で、平年より3日早く、出芽は良好だった。4月11日現在の葉長・葉数ともに平年を上回り、生育は順調である。
- 2 一般ほ場のトンネル栽培のは種作業は、例年並みの3月9日から始まった。3月19日の降雪の影響で一時中断し、3月25日頃から急ピッチで進んだ。
- 3 病虫害の発生は見られない。

【生育観測ほの生育状況（品種：春の星）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	4月11日現在	
			葉長 (cm)	葉数 (枚)
おいらせ町内山平	本年	3/18	11.8	4.1
	平年	3/21	6.7	1.9
	前年	3/20	9.4	2.6

注) 平年値は令和3年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 温度管理

密閉したままのトンネル内は日中に高温となりやすく、やけなどの障害が生じる恐れがあるため、本葉の出始め以降は30～35℃を超えないよう換気穴を開ける。

春夏にんじん

《は種・生育状況》

- 1 生育観測ほ（トンネル栽培）のは種は、平年より3日早い3月11日に行われた。
- 2 一般ほ場のトンネル栽培のは種は、例年並みの3月10日から始まったが、その後の降雪や降雨で一時中断し、3月28日頃から本格化し、4月第1半旬までにほぼ終了した。
べた掛け栽培のは種は、4月第2半旬から始まった。
- 3 病虫害の発生は見られない。

《今後1か月間の主な作業》

1 は種

ア ほ場が過湿な状態での耕起は避ける。また、発芽には10℃以上の温度と十分な水分が必要なため、土壌が乾燥している場合は降雨後には種する。

イ は種深度は1.5cm程度となるよう作業時に確認する。

2 温度管理

トンネル栽培では、生育ステージに応じて適正な温度管理を行う。出芽～4葉期は30℃以下、5葉期以降は25℃以下とする。

3 排水対策

しみ腐病は過湿によって発病が助長されるので、降雨後は、ほ場内に滞水しないよう排水対策を十分行う。

ごぼう

《今後1か月の主な作業》

1 畑の準備

- ア 排水対策を徹底し、土壌診断に基づき土壌改良資材を施用して土づくりを行う。
- イ やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥施用はしない。
- ウ 土壌消毒を行う場合は、使用上の注意を守る（クロルピクリン剤などの土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性資材）で被覆する）。

ばれいしょ

《植付・生育状況》

- 1 生育観測ほの植付けは、平年より1日早い4月3日に行われた。
- 2 一般ほ場のマルチ栽培での植付作業は、4月3日頃から始まり、まだ最盛期を迎えていない。

《今後1か月間の主な作業》

1 芽出し

マルチ栽培では、萌芽が進んだら順次芽出し作業を行う。

りんご

《生育状況》

- 1 十和田市米田地区の発芽日は、「ジョナゴールド」が平年より1日遅い4月5日、「王林」が平年より1日遅い4月6日、「ふじ」が平年より1日早い4月7日であった。
- 2 展葉日は、「ジョナゴールド」が平年より4日早い4月11日、「王林」が平年より4日早い4月12日、「ふじ」が平年より6日早い4月13日であった。

【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種 生態	年次	ジョナ ゴールド	王 林	ふ じ
		十和田市米田	発芽日	本年	4/ 5
平年	4/ 4			4/ 5	4/ 8
展葉日	本年		4/11	4/12	4/13
	平年		4/15	4/16	4/19

注) 平年値は、「ジョナゴールド」「王林」が平成22年～令和3年までの過去12か年の平均値、「ふじ」は平成19年～令和3年までの過去15か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 霜害対策

花芽の耐凍性は生育の進みとともに低下するので、気象情報に十分注意して霜害対策に万全を期す。

ア 燃焼法

- ・燃焼資材をあらかじめ園地の邪魔にならない所に配置しておき、霜注意報が出たら点火位置に移動する。地上1.5mの高さの気温が0℃になったら点火する。
- ・燃焼法を利用する際は、「火災と紛らわしい煙又は火災を發する恐れがある行為の届出書」などを所轄の消防署に事前に提出する。

イ 燃焼資材

- ・霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）
霜カット2kgを缶又は袋に入れ、10a当たり40～60個配置する。
- ・A重油
4リットル缶を利用する場合は、10a当たり30缶以上を配置する。

夏秋ギク

《今後1か月間の主な作業》

1 育苗管理

定植1週間前から徐々に苗を外気に慣らす。湿度が高くと白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、ハウスの換気をこまめに行う。

2 定植ほ場の準備

残存株や雑草は病虫害の発生源となるため、抜き取って処分する。ほ場全面に十分にかん水し、下層まで水分を確保したのち、土壌改良資材や肥料を施用する。

3 定植

苗が老化すると、活着が悪く草丈の伸びも劣るので、適期に定植する。低温や降霜の心配があるときは、二重被覆等で保温に努め、初期生育を確保する。

トルコギキョウ

《今後1か月間の主な作業》

1 育苗管理

育苗温度は、発芽が揃うまでは25℃を目標とし、その後は徐々に下げ、生育適温の15～20℃で管理する。育苗期間中は用土が乾燥しないよう、こまめにかん水する。

2 定植ほ場の準備

ほ場全面に十分にかん水し下層まで水分を確保したのち、土壌改良資材や肥料を施用する。定植作業まで間があり、乾燥のおそれがある場合は、被覆資材を張って乾燥を防ぐ。

3 定植

8月の旧盆から秋彼岸に出荷するためには、定植を5月上旬までに行う。苗が老化すると定植後の生育が劣るので、本葉4枚展開時まで定植する。定植後は地温12℃以上を確保するとともに、軽くかん水を行い活着を促す。

リンドウ

《今後1か月間の主な作業》

1 施肥（初年目・定植前）

完熟堆肥を200kg/a、土壌診断に基づき石膏及びぼうりん等で土壌改良する。施肥量は成分量で窒素0.8～1.5kg/aで、りん酸、加里も同程度とする。

2 株仕立て（2年目以降）

草丈10cm頃までに弱い芽を株元から折り取り、1株当たり15本程度とする。ウイルス病の伝染を防ぐため、ハサミ等は使わず手で折る。

3 敷きわら（2年目以降）

敷きわらは、根を高温・乾燥から守り、病気の発生や地温の上昇、雑草の発生を抑える効果が高いため、積極的に行う。

牧 草

《生育状況》

- 1 十和田市の生育観測ほの消雪は、平年より4日遅い3月30日であった。
- 2 採草地の施肥作業は、4月上旬から始まっている。
- 3 生育観測ほの4月12日時点の草丈は11.5cmで平年並みである。

【生育観測ほの生育状況（品種：オーチャードグラス）】

調査地	年次	消雪期 (月/日)	4月12日現在 草丈(cm)
十和田市米田	本年	3/30	11.5
	平年	3/26	10.2
	前年	3/15	17.3

注) 平年値は令和3年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

牧草は出穂始期から出穂期に刈り取りし、乾草またはサイレージに調製する。

飼料用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場の準備

完熟した堆肥を4～8 t / 10 a 施用し、プラウ等により土壌とよく混ぜる。碎土や整地が不十分な場合、発芽不良となり欠株が生じやすくなるほか、除草剤の土壌処理効果が劣るので、できるだけ丁寧に行う。

2 は 種

10 a 当たり栽植本数は、極早生品種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生品種で6,000本を標準とし、5月上旬から遅くとも5月末までには種を終えるようにする。

3 雑草防除

優先雑草の種類に応じて適切な除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。